

高齢者公益事業部

2016年度は、経営の安定と持続性の確保に重点を置き事業を行った。まず、懸案事項であった浜名湖エデンの園1・2号館耐震対策建替え工事計画では、ご入居者を対象とした工事説明会で意見交換を重ね、2016年度中に準備工事に着手することができた。2017年度は、この工事が本格的に開始され、ご入居者の皆様にも多大なご迷惑をおかけすることが容易に予想される。このため、ご入居者の身体的、精神的な負担を少しでも軽減できるよう、さらに、ご入居者を支える現場職員の労働環境の保全に事業部一丸となって取り組んでいく。

また、「中期経営計画 2016-2020」を策定した際に、あらためて当事業部の経営に関する将来見通しを検討した。その結果、事業部全体の健全性について自信を深めることができ、さらに新規計画の推進も可能との見通しを立てることができた。有料老人ホームの安定経営には一定の入居率の保持、即ち、新入居者の確保が不可欠である。2016年度は、新規入居者数が予算未達となったことから、この経験を教訓に入居者募集計画の再検討を行い、其々のホームに合った効果的な募集方法を勘案し実施する。

導入から4年目となるEQC（EDEN QUALITY CONTROL・エデン事業部内の品質管理システム）においては、書式・マニュアルの整備が2017年度中に各施設で完了する。今後はサービスの持続性確保に向け、EQCシステムが確実に機能しているか検証していく段階に入る。と同時に、「ご入居者のお一人おひとりに寄り添い気配りのできる職員」の育成や体制作りに一層の努力をする。

昨今、職場での女性の活躍が推進されており、聖隷福祉事業団でも女性活躍推進法に基づく認定企業（えるぼし認定企業）として最高ランクである3つ星を取得した。当事業部としても積極的な女性管理職の登用と、女性職員の活躍の場造りに注力していく。

職員の確保、特に看護介護職員の採用に於いては各施設苦慮しており、働きやすい環境の整備が急務である。今後に向けて業務負担を軽減するための介護ロボットやIoT（Internet of Things）の導入を積極的に行っていきたい。

各施設の付属診療所については厳しい経営状況が続いているが、本部職員が積極的に経営に参画し、診療所長・スタッフと共に目標数値の達成に向けた関わりを強化することで、経営改善を進めていきたい。また、昨年に引き続き浜名湖が募集停止となるため、その他直営7施設の目標数値として、入居契約件数96件、入園金合計38億円、事業部全体の当期活動増減差額として7億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と持続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と自覚
 - (イ) その人らしく最期まで生活することを支えるサービスの実践
 - (ウ) サービス内容の可視化
 - (エ) 公益活動の推進
2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 販売対象居室 入居率 95%を目指した募集活動の展開
2017 年度 募集目標の達成（新規契約 96 戸、入園金合計 38 億円）
 - (イ) ベンチマークシートの活用（項目策定）による経営、運営改善
 - (ウ) 環境及び耐久力等を考慮した建物・設備更新
 - (エ) 耐震・老朽化対策計画の策定と実践
3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 人材の採用と定着への環境づくり
 - (イ) 事業部内部門別専門研修の拡大
 - (エ) 職員のレベルアップ
4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 公益的活動の推進
 - (エ) EQC の浸透・実践
 - (オ) 認知症ケアの各施設での実践
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新しい高齢者住宅の検討
 - (イ) 次世代介護の創造と技術の共同開発（介護ロボット、介護備品）

【数値指標】（新規契約のみ）

2017 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1 番館	藤沢 2 番館	合計
件 数	0 件	18 件	13 件	25 件	20 件	9 件	8 件	3 件	96 件
入居率	85.5%	97.3%	92.3%	92.5%	91.5%	100%	100%	86%	93.1%
サービス活動収益(入園金)			4,154,700 千円						

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2016年度は、4月より新たな入居者の受け入れを停止し、入居者数が減少した1年であった。建て替え工事を控え、新規契約を行わなかったからであるが、待機登録者は順調に増加している。昨年末までには、基本設計が出来上がり工事施工業者も選定された。今後は、準備工事、解体工事、増改築工事と工程が進んでいく。1.2号館の入居者の住み替え・仮住まいの準備も進み、新たなお部屋での生活を始められる方もいる。2016年度は、工事が本格化しても生活の質を落とすことのないような取り組みを検討してきた新たなアクティビティや介護予防活動の取り組みにより、従来の快適な生活を継続するための活動について模索した。

2017年度は、工事が本格化する1年となる。工事に伴う騒音や制限される区域の発生など、対応しなければならない問題が次々に表面化してくると思われるが、一つひとつを丁寧に解きほぐし、最善の対応を導き出せるよう職員一人ひとりが知恵を出し合い、入居者の生活の質を維持していくことが最も重要な課題である。これから3年余り続く工事の初めの大きなハードルを乗り越えていけるよう高齢者公益事業本部や近隣施設との連携を強め、その対応に真摯に取り組んでいきたい。工事期間であっても、一人ひとりを大切にしたいケアの実践を通して、入居時から終末期まで切れ目のないサービスを提供できるよう、引き続き浜名湖エデンの園ブランドの確立に取り組む。その中でパーソン・センタード・ケア（その人らしさを尊重した介護やサービス）に基づくサービス提供は、園内学会での研究発表などを通じて、ここ数年、その取り組みの成果と課題をエデン全体に発信することができ、徐々に浸透してきている。今までにも増して、入居者一人ひとりの思いに寄り添い、入居者一人ひとりの視点に立ったサービスの提供に努めていきたい。そして、入居者がいつまでも元気で健康でいられる「健康寿命」を延ばす努力をしていきたい。食事に関しては、昨年度、介護居室への温冷配膳車の導入が実施され、一般居室への拡大を検討している。そして、2017年度は2018年度予定の仮設厨房への移行に向けて、準備を進める年と位置付けている。入居者募集については、引き続き、フルオープン時には、満室になるよう入居希望の待機者数増加につながる活動を続ける。

また、職員一人ひとりが、それぞれの目標を持ちながら、自らの責務を果たし、仕事への達成感を感じられ、ひいてはそれが事業計画の達成につながる施設となるように努める。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材確保と育成
3. 安定した経営基盤の確立と事業の持続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 未来へ繋がる建て替え計画の実践

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

(ア) 入居時から終末期まで連動したパーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービスの実践

(イ) その人らしく生活することを支える一歩進んだサービスの提供

(ウ) 入居者誰もが落ち着いてくつろげる環境づくり

(エ) ISO(標準化)とパーソン・センタード・ケア(個別化)サービスの統合

2. 次世代を担う人材確保と育成

(ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承・発展させる人材育成

(イ) 施設の「事業・運営計画」「予算」を全職員が理解し達成に参画

(ウ) 人材の採用と定着による安定した職場環境の確保

(エ) 職員(管理職含む)個々のレベルアップ

3. 安定した経営基盤の確立と事業の持続性の確保

(ア) 職員一人ひとりの募集意識の向上

(イ) 特定施設入居者生活介護の更なる理解

(ウ) 経営意識向上と、経費節減への取り組み強化

(エ) 診療所の収入確保

(オ) 地域における公益的な取組のための施設づくり

4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供

(ア) リスク予防の継続的な取り組み

(イ) リスク発生時の迅速な対応と再発防止の取り組み

(ウ) コンプライアンス体制の強化

(エ) 事業継続計画(BCP)構築の検討により災害発生時の対応力向上と三方原地域の連携強化

(オ) 入居者・職員の防犯意識の向上

(カ) 働きやすい労働環境・健康づくりへの取り組み

5. 未来へ繋がる建て替え計画の実践

(ア) 建て替え計画に伴う具体的運用の開始

(イ) 安心・安全な生活ができる環境の推進

(ウ) 工事に伴う入居者への精神的支援

【数値指標】

2017 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数/総戸数	262 戸/330 戸		42 戸/57 戸		304 戸/387 戸		
入居者数/定員	308 名/455 名		44 名/64 名		352 名/519 名		
入 居 率	79.4%		73.7%		78.6%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	14 名	13 名	28 名	16 名	12 名	21 名	7 名	111 名

職員数(常勤換算)	122.0 名
サービス活動収益	716,620 千円

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2016年度は宝塚エデンの園の運営、経営体質の改善に努め、今後の経営安定化の土台を築いた。

2017年度は当園の事業運営の3つの柱である「入居者満足・職員満足・経営安定」を支える取り組みとしてPlan-Do-Check-Action（PDCA）サイクルによる改善と適正化の姿勢をあらゆる場面に適応させることで、業務効率の改善と品質確保の両立を図っていく。また、園の取り組みに関する情報提供、情報発信の機会を増やすことで入居者と共に園の運営を進めていく体制の強化に努めたいと考える。

パーソン・センタード・ケア（その人を中心としたケア）の実践強化の取り組みとして、健康寿命向上のための介護予防の強化と並行して終末期を自分らしく過ごして頂くための準備への関わりをすすめる事で、トータルヘルスケアの体制を明確なものにしていきたいと考える。介護保険認定者数は年々増加し、介護に係るサービスの提供時間、人員は増加傾向にある。健康寿命の向上のための介護予防への取り組み強化において、園が保有する資源の活用による新たなサービスの在り方を検討していく。

介護、福祉分野は人員の確保が今以上に困難になることが予想される。人員確保に努めサービスの量と質を保つことが前提であるが、超高齢社会という現実を踏まえ、近い将来の人員不足状態への対策に取り組んでいく必要がある。具体的には介護ロボットの導入に向けての情報分析、検証を全職員で取り組んでいくこととする。

2016年度の有料老人ホーム業界は全体的に新入居契約が低迷傾向にあったが、当園は募集活動が効果をあげ予定の新入居者数を達成することができた。2017年度は引き続き予定の新入居者数の確保を目指し、新入居契約獲得活動への全職員の参加を実施していく。期末入居率は95.5%以上を経営指標とする。

ここ数年の異常気象がもたらす想定を超える災害への備えとして、防災・避難計画の改定を行う。地域交流・地域貢献の考えのもと地元の自治会との協力関係、連携の強化に努めていく。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたいより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足の向上

（ア）入居者満足度調査の分析と改善への取り組み（目標：星4.2以上）

- (イ) 楽しみながら食事ができる環境の提供（目標：前年度以上の喫食率）
- (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるサービスの実践（パーソン・センタード・ケアの実践）
- (エ) 看取り及びグリーフケアの実践
- (オ) 情報提供、情報共有による園運営の「見える化」の実践

2. 職員満足向上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定
- (イ) 接遇力向上と職場・職員間の連携強化
- (ウ) 段階的な人材育成の実践
- (エ) 業務・会議・委員会運営の見直しによる効率化

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 全職員が募集活動を推進し、期末入居率 95.5%の確保
- (イ) 附属診療所部門の経営体制強化(円滑な入退院の実現、リハビリテーション体制の強化)
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の確認と実践
- (エ) 費用対効果を考慮した経費管理と省エネルギーの取り組み
- (オ) 介護ロボットに関する情報収集、情報分析、検証の実施

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 感染予防対策の徹底と発生時の連携強化
- (イ) 災害や救命時の緊急対応の強化
- (ウ) リスク、苦情への迅速な対応

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の実証及び連携強化
- (イ) 環境美化活動の実施

【数値指標】

2017 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数	343 戸 (354 戸)		44 戸 (50 戸)		387 戸 (404 戸)		
入居者数	407 名		45 名		452 名		
入 居 率	96.9%		88.0%		95.8%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	25 名	18 名	33 名	24 名	12 名	12 名	7 名	131 名

職員数(常勤換算)	136.6 名
サービス活動収益	916,650 千円

介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2016 年、開園 36 周年を迎えた松山エデンの園では、これまでの活動を生かし、中期的に園運営を安定させ安らぎの住まいを継続してご提供していくため、各活動の整備並びに検証を図ってきた。入居募集活動は全職員が一丸となって取り組んでいるが、新規入居契約数は昨年より減少している。松山エデンの園は小規模である。小規模の良さもあるが、経営的なスケールメリットは他のエデンと比較して小さい。それだけに高い入居率の持続することが重要であり、2017 年度は、高齢者の住まいが多様化する中で、事業部理念でもある高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援できる施設であることを PR する活動をさらに強化し、入居ニーズに幅広く応え新規入居契約の獲得による入居率 90%達成を目指す。

環境整備においては、1・2 号館は 36 年経過、3 号館（介護棟）については竣工から 10 年を経過し、安全に配慮した老朽箇所の整備を計画的に対応していく。入居者が最期までその人らしく生活できるように、職員の積極的な関わりから入居者へのいきがづくりやコミュニティ支援を行い、園内行事・介護予防活動の実施や自立した入居者が楽しめる健康増進の取組の計画を行う。地産地消の家庭的な食事を提供し、介護食の充実と併せて、衣・食・住が充実した毎日を送っていただける松山エデンの園を目指す。地域へは、引き続き地域行事や地域防災活動を行い、当園の存在価値を高めていくとともに、松山ベテル病院との連携をさらに深めてより一層入居者の要望にお応えしていきたい。

【施設理念】

『 明るく楽しく共に輝いて生きる 』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 質の高いケアの提供
2. 安全で美味しい食事の提供
3. 人材の育成
4. 安定した園運営を永続するための入居率の向上
5. 地域貢献・交流の推進
6. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 質の高いケアの提供
 - (ア) 入居者に安心と信頼を感じて頂ける生活支援の実施
 - (イ) 入居者の健康管理の積極的支援
 - (ウ) 入居者主体の認知症予防・介護予防活動の実践
 - (エ) 入居者の気持ちを大切にしたターミナルケアの実践

- (オ) 職員・職場間の連携と協力
2. 安全で美味しい食事の提供
- (ア) 多彩な食材・食事の提供による食事満足度の更なる向上
- (イ) 地産食材導入の推進と適正なコスト管理の両立
- (ウ) 生きがいのある生活の支援(介護食の追及)
- (エ) “おもてなし” の心を大切にした食堂づくり
3. 人材の育成
- (ア) 聖隷理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上
- (イ) 職員一人ひとりの個性を尊重し個の力を育成するための各種研修参加への積極的支援
- (ウ) コミュニケーション能力の向上
4. 安定した園運営を永続するための入居率の向上
- (ア) 新規契約戸数 13 戸 15 名
- (イ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応(介護棟への直接入居)
- (ウ) 全職員一丸となった募集活動への取り組み
- (エ) 費用対効果を考慮した省エネルギー機器設備への更新・転換
- (オ) 職員・入居者への省エネルギーに関する情報提供と啓蒙活動
5. 地域貢献・交流の推進
- (ア) 地域を巻き込んだ防災避難活動、環境保全活動への取り組み
- (イ) 地域の医療・介護連携への参画
- (ウ) 職員研修・サービス向上等実務面における医療法人聖愛会との連携強化
6. 地域における公益的な取組
- (ア) 地域行事への参加と協力
- (イ) 公開講座等の開催

【数値指標】

2017 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	99 戸		32 戸		131 戸			
入居者数	123 名		32 名		154 名			
入 居 率	92.5 %		91.4 %		92.3 %			

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	23 名	5 名	11 名	7 名	12 名	9 名	6 名	73 名

職員数(常勤換算)	56.8 名
サービス活動収益	314,880 千円

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2016 年度は、入居者をはじめとする多くの関係者の協力で、開園 30 周年を無事迎えることができた。この節目の年を迎えるにあたり、正面玄関、入居者の憩いの場である喫茶のリニューアルをはじめとする共用部の改修工事を実施した。また特に要介護者等利用者が穏やかな生活を過ごせる様、温冷配膳車の導入、ケアサービスにおいては、パーソン・センタード・ケアの考え方に基づくケアの実践を推進した。

新入居者募集においては、入居者の全面的な協力を頂くも予算未達を見込む厳しい状況となった。

2017 年度は、安定した施設運営を継続するための 3 つの課題=「サービス向上」、「新入居者募集」、「人材育成」を重視した取り組みを行う。「サービス向上」については、安全、安心、楽しく美味しい食事をテーマにメニューの見直し等、食事サービス質の向上に取り組み、食事満足度を上げたい。新入居者募集については、当園の強みをアピールすることを目的とした活動を企画すること、園全体で募集活動を積極的に取り組むことで、入居率アップにつなげたい。「人材育成」については、職員ひとり一人が有料老人ホームで働くプロとしての意識を持ち、自主自立した業務の遂行、達成感を実感できるような人材を育成する。

30 年という長い歴史から入居年数の違い、年代の違い等、幅広い入居者層が増える中、入居時より年を重ねていく中、医療・介護が必要となり、そして逝去までを安心してその人らしく過ごすためのサービスが将来にわたって継続するための視点を大切にしたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と ここちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安全、安心を基盤とした各種サービスの提供と質向上
2. 自ら考え行動できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. 環境・省エネルギーへの取り組み強化と地域における公益的な取組
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安全、安心を基盤とした各種サービスの提供と質向上
 - (ア) 人権擁護について理解を深める
 - (イ) 楽しく美味しい食事サービスの質向上への取り組み
 - (ウ) 開園 30 周年記念事業の継続
 - (エ) リスク管理の強化
 - (オ) 入居者ニーズに沿った行事の企画と実施
 - (カ) 入居から退去までのトータルケアの充実

2. 自ら考え行動できる職員の育成

- (ア) 職場環境の充実と健康づくりへの取り組み
- (イ) 各課の情報連携の強化
- (ウ) “えるぼし”を意識した人材の確保と育成
- (エ) 管理職をはじめとする職員個々のレベルアップ

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 園内設備の計画的な改修の検討と実施
- (イ) 販売対象居室の入居率 90.0%(期末)以上確保
- (ウ) 全課が参画する募集活動
- (エ) 診療所のサービス向上による利用者アップ
- (オ) EQC (EDEN QUALITY CONTROL) の構築と確立

4. 環境・省エネルギーへの取り組み強化と地域における公益的な取組

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取り組み
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加、講演会等の実施検討
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 夜間・休日を想定した災害防災訓練のレベルアップ
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した防災体制の検討

【数値指標】

2017 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	341/379 戸	38/45 戸	379/424 戸
入居者数	431/500 名	39/50 名	470/550 名
入 居 率	90.0%	84.4%	89.4%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	(合計)
	15 名	15 名	30 名	21 名	15 名	19 名	13 名	128 名

職員数(常勤換算)	136.1 名
サービス活動収益	975,230 千円

介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園

2016 年度は、築 25 年経過する既存棟の老朽化に伴う配管からの漏水対策工事や屋根部分の改修工事等、大規模な修繕の年となった。また、入居者の変化するニーズに合わせた共用部のリニューアルや園バスのダイヤ改正等を進めることができた。介護サービスについては、入居者に向けた生活支援サービスの説明会を開催。看取り介護指針についても説明と同意に注力し浸透を図った。新入居契約数は高い目標値を立てたが苦戦を強いられた。しかしながら浦安地区に特化した PR 活動を推進したことにより、近隣からの新規来園者も増え、地域への認知度が高まったことを実感することができた。

2017 年度は、7 月 1 日にエデンの園として開園 10 周年の節目の年を迎える。これに合わせ一年を通して、入居者が企画・運営にさらに参画できるイベントや施設運営を進めたい。また、自立者の日頃の健康チェックや運動による健康維持、園内での生活及び身元引受人の状況把握についてもさらに強化する。介護については、引き続きパーソン・センタード・ケアについて全職員に浸透を図り、入居者一人ひとりの思いに寄り添い、よりニーズに合ったサービス提供に努めていきたい。職員については、お互いが尊重し合い、長く継続して働ける環境づくりと、専門職としてのスキルアップを支援する体制を構築し、モチベーションの向上を図っていききたい。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追及
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 環境・省エネルギーと地域における公益的な取組

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追及
 - (ア) パーソン・センタード・ケアの園全体での取り組み推進
 - (イ) 10 周年記念プロジェクトの実施
 - (ウ) EQC (EDEN QUALITY CONTROL) によるサービスの可視化
 - (エ) ワークショップによる接遇向上の取り組み
 - (オ) 入居者満足度調査結果からの改善点の明確化
 - (カ) 入居者参画型の楽縁プロジェクトの推進
 - (キ) 入居者の声を反映した楽しめる食事の提供
 - (ク) 苦情の迅速な対応と共有
 - (ケ) エンド・オブ・ライフケアとグリーフケアの推進

2. 働きがいのある職場風土の醸成
 - (ア) 聖隷理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透
 - (イ) 日常業務での気づきを指摘し合える職場作り
 - (ウ) 職場長による全職員との面談実施
 - (エ) 研修参加率の向上
 - (オ) 看護・介護ラダーの実施とアセッサーを活用した職員の育成
 - (カ) メンタルヘルス向上への取り組み
3. 安心・安全な施設づくり
 - (ア) 感染症発生時の早期対応と感染拡大ゼロ
 - (イ) リスク対策の強化とインシデント事例の共有
 - (ウ) コンプライアンスの正しい理解と意識の向上
 - (エ) 施設防災マニュアルの更新と実践的な避難訓練の実施
 - (オ) 共同墓苑の入会促進
 - (カ) 離園防止への取り組み
4. 安定した施設経営の実現
 - (ア) 各課参画した募集活動の推進
 - (イ) 地域自治会や老人クラブへの募集アプローチ
 - (ウ) 特定施設入居者生活介護の適正な締結と加算の算定
 - (エ) 喫食率1%アップの実現
 - (オ) 職員への経営状況の周知
5. 環境・省エネルギーと地域における公益的な取組
 - (ア) 地域清掃活動の企画・参加
 - (イ) 地域開放型イベントの継続的開催
 - (ウ) 近隣と共同の避難訓練の実施
 - (エ) 環境・省エネルギー活動への全職員の意識向上

【数値指標】

2017 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	186 戸	21 戸	207 戸
入居者数	213 名	21 名	234 名
入 居 率	95.4%	72.4%	92.4%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	12 名	6 名	14 名	8 名	11 名	7 名	4 名	62 名

職員数(常勤換算)	68.8 名
サービス活動収益	401,210 千円

介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園

2016年度は「聖隷横浜病院との24時間医療連携強化」を継続し、「エンド・オブ・ライフケア」の充実に向け、医師が入居者・家族に意向確認をし、課を超えた情報交換・共有をすることで、それぞれの「想い」にチーム全体で応えられるようになった。入居率については、2016年度当初にご逝去が続いたこと、待機登録者の増加の一方で入居時期未定の方が多数であること等から苦戦を強いられ、平均入居率93%と伸び悩んだ。また、入院者の増加、長期入院の発生によって収支に影響が生じた。しかし、聖隷横浜病院入院者の直接入居が続いたこと等により、年度末までには数値指標の達成が見込める。また、開設当初から重視してきた「接遇」に着眼し、教育・接遇委員会を中心に、お互いの良い点を言語化し伝えることにより職員のモチベーション向上を図り、職場環境を改善させる取り組みを始めた。環境・省エネルギー活動では、園周囲の花壇整備を職員とボランティア参加により効率良く行うことができたが、電気・水道の使用量が2015年度と比べて増加したことは課題として残った。

2017年度は、引き続き聖隷横浜病院との連携を強化することによって「エンド・オブ・ライフケア」の一層の充実を目指す。また、医療依存度の高い入居者が増加しているため、人員の確保がより重要となる。パート職員の採用検討等によって必要人員の確保に取り組む他、安全・安心な療養環境の整備を進めていく。職場環境向上については、現在目に見える結果は出ていないが、継続することにより、職員のモチベーションの向上を図り、相互理解を深め、チーム全体として更なるサービス向上に繋げていきたい。環境・省エネルギー活動については、今後も地域との連携も兼ねて取り組んでいく。電気・水道使用量の増加に対しては、LEDやデマンド導入も視野に入れるとともに、職員のエコロジーや省エネルギーに対する意識を高めていくことにも力を入れていく。入居率98%を維持し、入居者・家族へ満足のいくサービスを提供するため、パーソン・センタード・ケアに即したチームケアの実現を目指して新たな視点で課題を克服できるよう、事業・運営計画達成に全力を尽くす。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出逢えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成
3. 経営基盤の安定と持続性の確保
4. 地域における公益的な取組
5. 環境・省エネルギー活動への取り組みの強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供

- (ア) 現状に即した情報交換・共有とチームケアの充実
- (イ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催の徹底：感染・苦情相談含む）
- (ウ) PCC 理念に即したチームケアの実践
- (エ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持強化
- (オ) 2016 年度入居者満足度調査結果の評価・分析による改善への取り組み

2. 人財の育成

- (ア) 職員同士で感謝等を言語化することによるモチベーション向上
- (イ) 教育システムの構築と実践
- (ウ) ストレスチェックから見えてくる課題への対応によるメンタル不全者発症ゼロ化

3. 経営基盤の安定と永続性の確保

- (ア) 平均入居率 98%の維持
- (イ) 職員全員のコスト意識の強化
- (ウ) 収支構造の改善に向けた取り組みの実践

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域防災連携の構築と実践
- (イ) 地域貢献への活動の継続

5. 環境・省エネルギー活動への取り組みの強化

- (ア) 入居者と協働したエコロジー活動
- (イ) LED、デマンド導入を視野に入れた省エネルギー・エコロジー活動の啓蒙の継続

【数値指標】

2017 年度期末

	2017 年 3 月末	2017 年 4 月 ～2018 年 3 月	計（退去 8 戸除く）
契約戸数	49 戸	9 戸	50 戸
入居率	98.0%	100.0%	100.0%

※退去戸数を 8 戸で計上

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
要介護認定者数	1 名	2 名	20 名	5 名	7 名	4 名	11 名	50 名

職員数(常勤換算)	50.3 名
サービス活動収益	269,680 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

新たな管理体制でスタートした 2016 年度は、聖隷藤沢ウェルフェアタウンが目指すものを職員全員で再確認し、現状分析と課題の整理を行ってきた。今後も継続的に検討を要する課題はあるが、2017 年度は新たな目標を掲げ、利用者の「安心・安全」の更なる充実に向けて実践していく。

2016 年 10 月からスタートした藤沢市介護予防・日常生活支援総合事業をはじめ、2018 年 4 月には介護報酬改定も予定されており、私たちを取り巻く環境は急速に変化している。聖隷藤沢ウェルフェアタウンの各事業は、その変化に即応していくことに加え、先駆的なサービスの発想と実践力がこれまで以上に大切となる。そのためには、職員一人ひとりが、よりプロとして高い意識をもって「聴く力」「考える力」「応える力」の向上に努め「改善・改革」を実践していく。

また、わたしたちが、この地域において地域包括ケアシステムの一翼を担うために、行政との連携や地域とのネットワークをより深めることはもちろん、わたしたちが提供するサービスを、「ていねいに・わかりやすく」可視化し、利用者や地域の方が、これまで以上に安心して生活できる環境づくりも併せて行っていく。これらの取り組みが、聖隷福祉事業団が目指す、社会福祉法人の使命と地域別戦略のひとつとして機能することを目指し活動していく。

2017 年度も、利用者の皆様が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じることができるよう、一丸となって運営に取り組んでいく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安全・安心の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域・社会とのつながりの推進

【年度事業目標・年度重点施策】

【聖隷藤沢ウェルフェアタウン】

1. 一人ひとりを大切にしたケア・サービスの実践
2. 健康長寿を目指したサービスの展開
3. 「提案・改善・改革」の実践
4. その時その場が育成の機会（OJT の強化）
5. 地域における施設の価値創造（地域包括ケアシステム・地域連携の推進）

藤沢エデンの園（一番館・二番館）

藤沢エデンの園一番館は、入居率 100%の達成、維持を目指す。一番館の提携施設としての役割を担う二番館は、一番館との情報共有や業務連携をより強化し、これまで以上に質の高いサービスの提供を行う。

【藤沢エデンの園 一番館】

1. 安心・安全の提供
2. 介護予防活動の充実
3. 職員が働きやすい環境づくり

（数値目標）

2017 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	209 戸／209 戸	—	209 戸／209 戸
入居者数	268 名	—	268 名
入居率	100%	—	100%

職員数(常勤換算)	54.6 名
サービス活動収益	413,410 千円

【藤沢エデンの園 二番館】

1. 安心・安全の提供
2. 入居者視点のサービスの提供
3. 職員一人ひとりを大切にした人材育成

（数値目標）

2017 年度期末

	2017 年 3 月末	2017 年 4 月 ～2018 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	40 戸／50 戸	48 戸／50 戸	48 戸／50 戸
入居率	80.0%	96.0%	96.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	0 名	2 名	13 名	15 名	10 名	5 名	4 名	49 名

職員数(常勤換算)	39.0 名
サービス活動収益	191,440 千円

藤沢愛光園

2017 年度は、入居者・利用者の安全と安心のサービス提供に努め、安定した入居率（利用率）を確保し、各ユニット間の情報の可視化や、入居者と職員の笑顔につながる活発なアクティビティを展開させていく。また、2025 年に向けた人材確保体制の構築に向けて、職員一人ひとりが働

き甲斐のある職場となるように取り組む。

短期入所や在宅サービス事業においては、2018 年の法改正を見据えながら、2020 年度には高齢化率 30%超えとなる湘南大庭地区において、藤沢エデンの園一番館の入居者を含めた地域住民に信頼され、必要とされる事業所となるように事業を展開させる。

【藤沢愛光園】

1. サービスの質の向上
2. 安定経営
3. 2025 年に向けた人材確保体制の構築

(数値目標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100 床	20 床
利用者延べ人数	35,770 人	6,753 人
営業日数	365 日	365 日
一日平均利用者数	98 人	18.5 人
稼働率	98.0%	92.5%
単価（1 人 1 日あたり）	14,013 円	13,225 円
サービス活動収益	501,670 千円	89,510 千円
職員数（常勤換算）	65.4 人	13.6 人
職員数（常勤換算）	79.0 人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2017 年度は、現在行っている機能訓練の評価や計画内容を分かりやすく可視化し、更に利用者が意欲的に機能訓練に取り組めるように支援する。また、利用者のリハビリ実践にむけて更に職員の育成に取り組む。

(数値目標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス 活動収益
	平均利用 者数	月利用 者数	年間利用 者数	月利用 者数	年間利 用者数	介護給付 (回)	総合事業 (月)	
一日	25.6 件	656.4 件	7,877 件	20.7 件	248 件	10,172 円	40,343 円	96,170 千円
半日	2.8 件	70.5 件	846 件	—	—	5,640 円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

2017年度は、ケアマネジメントの質の向上が図れるように計画的な人材育成を行い、急激に高齢化の進む湘南大庭地域やエデンの園のニーズに応えられる事業所の体制作りに取り組む。

(数値目標)

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,134 件	582 件	15,742 円	4,200 円	54 件	5,000 円	20,560 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2017年度は地域の居宅支援事業所との関係性の再構築を図り、様々なニーズに対応できるよう人材の確保に努め、地域に信頼されるヘルパーステーションとなるよう取り組む。

(数値目標)

介護給付			総合事業（サービスⅠ）		総合事業（サービスⅡ）		自立支援	
平均利用者数	月訪問数	年間訪問数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	月訪問数	年間訪問数
35 名	525.0 件	6,300 件	20.5 件	246 件	11.5 件	138 件	292.0 件	3,504 件

単価				サービス活動収益
介護給付（回）	総合事業（サービスⅠ）	総合事業（サービスⅡ）	自立支援（回）	
3,517 円	18,472 円	14,095 円	3,986 円	46,830 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2017年度は、訪問エリア（寒川・綾瀬市の一部）拡大や祝日の訪問を充実させ、安定した経営を目指す。さらに安全にケア・サービスが提供できるよう人材育成を強化し、地域に信頼され選ばれる事業所となるよう取り組む。

(数値目標)

平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	単価（円）	サービス活動収益
88.7 名	658.7 件	7,904 件	9,660 円	76,350 千円

ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2016 年度も有料老人ホームの一般居室は高い入居率が確保でき、介護居室を必要とされる方の住み替えも年間を通して順調に行った。2 年目に入った「健幸（造語）生活推進プロジェクト」は、「有酸素運動と軽度認知症の関係」について日本早期認知症学会で発表し、新たなプログラムの確立に向けて共同研究を続けている。奈良ベテルホームは渉外活動を積極的に行い、各フロアの設備、備品を整備して利用者にとって良い環境作りに努めた結果、安定した収入確保につながった。在宅部門は西大和地区への事業集約化として 3 事業でのスタートとなった。奈良施設全体としての地域支援への取り組みは、河合町地域包括支援センターが主催する「河合町医療・介護交流会」に、有料老人ホーム、クリニック、奈良ベテルホーム、在宅 3 事業所から職員が参加している。更に同町より家族介護教室事業を受託し、地域住民向けに「河合町家族介護教室」を開催した。安全面での取り組みとして、開園以降初めて不審者対応防犯訓練を実施した。

2017 年度には開園 25 周年を迎える。四半世紀にわたり WAC 第一号施設として継続してきた事業活動を再認識し、各事業の連携を更に強化して「エデン版地域包括ケアシステム」の構築に着手する。入居者、利用者、地域に向けた奈良施設全体の活動を情報発信し、介護予防活動の強化、認知症への理解を深める。設備、備品においても 25 年の経年を踏まえ、適宜整備を行い生活環境の改善にも努める。サービス提供については職員一人ひとりの知識、技術の向上はもとより、各事業の連携から派生する複合施設の強みを如何なく発揮できる体制を整える。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践
 - (ア) エンド・オブ・ライフケアの推進
 - (イ) 利用者にとって安心・安全なやすらぎの「家」の提供
 - (ウ) エデン版地域包括ケアシステムの構築
 - (エ) 楽しさの創造、利用者参画型サービスの実践
 - (オ) 食べる楽しみの追及と適切な食堂運営
 - (カ) 介護予防、認知症予防の取り組みの強化
 - (キ) 生活リハビリテーション等による自立支援の促進
2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 複合施設の強みを活かした地域ニーズの積極的な受入体制の確立

- (イ) 安定運営のための収益確保
- (ウ) 入居募集機能の強化と連携
- (エ) 経営指標の可視化共有による経営意識向上

3. 人材の育成・活用・定着の強化

- (ア) 各種ラダーの活用と運用の定着
- (イ) OJT を推進できる次世代を担う人材育成
- (ウ) 他施設との横断的な人材交流の推進
- (エ) 専門研修への計画的参加と専門資格の取得支援
- (オ) 人材の安定確保への取り組み
- (カ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染対策の徹底と集団感染の防止
- (イ) リスク対策の強化とコンプライアンス意識の向上
- (ウ) EQC (EDEN QUALITY CONTROL) の定着
- (エ) サービスの適正化・数値化の推進と利用者への的確な説明
- (オ) 接遇の維持向上
- (カ) 施設設備の適切な更新と園周辺環境の整備
- (キ) 防災・防犯対策の見直しと強化
- (ク) 省エネルギー活動の継続

5. 地域における公益的な取組及び他施設との連携

- (ア) WAC 施設としての地域貢献と他施設連携の強化
- (イ) 地域との防災の協力
- (ウ) 地域における「学び」の拠点となるための整備
- (エ) 地域支援事業への積極的な参画

◆ 有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2016 年 12 月末現在において、入居契約件数 394 戸（一般居室 352 戸、介護居室 42 戸）入居率は 96.6%（一般居室 97.2%、介護居室 91.3%）である。また、入居者の平均年齢は全体で 82.0 歳である。2017 年度は開園 25 周年を迎え、健幸生活推進プロジェクトの継続とともに、エデン版地域包括ケアシステムの構築に向けて、より一層入居者に最善のサービス提供ができる環境づくりを行う。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践

- (ア) 施設内連携の実践によるエデン版包括ケアシステムの構築
- (イ) エンド・オブ・ライフケアの推進

- (ウ) 認知症の正しい理解とパーソン・センタード・ケアの浸透
- (エ) 利用者満足を意識した安定した食堂運営の確立
- (オ) 『健幸生活』『MCI チェック』の継続と介護予防の推進
- (カ) エデンいきいきプログラムの内容見直しによる効率的な運営

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 適切な介護認定に向けた介護保険契約の推進
- (イ) 身体・空室状況を踏まえた必要とされる方への適正な住み替えの実施
- (ウ) 入居者ニーズを生かした行事企画の実践と効率的な運営
- (エ) 広報・入居募集活動の強化と連携

3. 人材の育成・活用・定着の強化

- (ア) 各種ラダーを活用した OJT の実践と自ら考え行動できる職員の育成
- (イ) 接遇の維持向上を目指した職員教育の徹底と推進
- (ウ) 他施設・他部署との計画的な交換研修の推進と職場の活性化
- (エ) ストレスチェックの活用とメンタルサポートによる働きやすい職場環境整備

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) マイメモリーシート共有による入居者への細やかなサービス提供
- (イ) EQC の定着によるサービスの標準化の推進
- (ウ) 危険予知トレーニングやリスク分析能力向上による事故防止の推進
- (エ) DCM の効果的な活用
- (オ) 園内美化活動をはじめとした入居者との共同活動の構築

5. 地域における公益的な取組及び他施設との連携

- (ア) WAC 施設としての地域貢献と地域支援事業への積極的な参画
- (イ) 地域における「学び」の拠点となるための整備
- (ウ) 地域との防災の協力

【数値指標】

2017 年度期末

	一般居室			介護居室				計	
契約戸数	355 戸			40 戸				395 戸	
入居者数	454 名			41 名				495 名	
入 居 率	98.1%			87.0%				96.8%	
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	
	37 名	24 名	29 名	20 名	11 名	13 名	4 名	138 名	
職員数（常勤換算）	96.46 名								※有料老人ホーム部分

◆ 高齢者総合福祉センター

2016 年度は、従来より取り組んできた「質の向上」と「更なるゆしみへの繋がり」を意識し、講座やイベントでの申込み参加を着実に確保し期待に応えてきた。2017 年度は、地域におけるこれからの「ふれあいプラザ」の在り方を見出し、近隣自治会など関係団体と連携して期待される役割を果たすとともに、3～5 年の中長期的な視野に立ち、より効果的で丁寧な運営を目指す。

◆介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2016 年度は、昨年同様に安定した経営基盤を確立する為、引き続き渉外・広報活動及び利用者管理の強化を実施した。その結果、通所リハビリテーションは年間を通じて大幅に予算達成できた。入所は退所者数が多く若干の予算未達となった。ケア面においてはセンター方式の活用を推進し、利用者個々の「楽しみ」「喜び」につなげる活動提供を行い、生活意欲の向上に努めた。また昨年に続き各フロアのハード整備を行い、利用者・家族等にとって良い環境を提供できた。2017 年度は、個別ケアの充実を図り、利用者がその人らしく生活できる為の支援を迫及し、サービスの質向上につなげる。また引き続き収益確保・予算達成による事業運営の安定化を図る。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2016 年度は、診療報酬改定への対応、看取りの対応や個別ケアの充実、介護居室との関わりにより、介護居室への住替え促進に積極的に取り組んだ。在宅事業所との連携による要介護者の入院受入れの再開など外部からも着実な患者確保に努めてきた。リハビリテーションの減算措置に対応すべく新規患者獲得に向け、エデンの園との新たな連携を模索し始めた。また、外来・病棟の環境整備により療養環境を充実させた。2017 年度は、リハビリテーションや健康診断等の業務改善や見直しを行い、医療費抑制が進むなか利用者視点に立ち回り、緩和ケアの充実など利用者ニーズに応えられる診療所運営を目指す。

◆ニッセイせいい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2016 年度は、訪問介護・福祉用具貸与、販売とも昨年度同様に予算を達成した。2017 年度は、総合事業に向けた契約書の整備と各市町村との契約締結し、2016 年度同様に新規利用者を更に獲得し、地域事業所、ケアプランセンター、訪問看護等との連携の中で事業運営の安定化を目指す。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2016 年度は、ターミナル訪問件数増で在宅での看取り件数が増加したが、訪問時間の短縮などで事業収入が減少し予算未達となった。その中で訪問看護の専門性を発揮し、積極的に幅広く訪問への関わりを行い、近隣介護事業所とのケア共有（吸引指導など）を実施し、利用者のニーズに応える事ができた。医療機関とは病棟訪問やカンファレンスの積極的参加で情報共有が出来た。2017 年度は、介護保険利用者だけでなく、医療保険適用利用者、精神科訪問看護の利用者獲得を目指し渉外活動を充実させ、事業運営の安定化を目指す。

◆ ニッセイせいいケアプランセンター西大和

2016 年度は、特定事業所加算Ⅱ取得継続に向けて可視化を進め、医療・介護・地域などとの連携を強化したことが利用者数増につながり、予算を達成した。2017 年度は、事業所全体で利用者家族を最期まで支え、地域包括ケアシステム的一端を担うため、関係機関との連携強化を推進し、より良いサービスを提供する中で、地域の中で頼りにされる事業所と新規利用者獲得による事業運営の安定化を目指す。

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2016 年度は開園 20 周年という節目に当たり、園の運営について様々な機会振り返りを実施し、一部の介護サービスを見直すなど「適正化」と「重点化」に着手した。2017 年度もその取り組みを継続し、入居者の平均年齢上昇による介護サービスの量的拡大に対応するとともに、医療や介護を必要とされる入居者に、全職場・全職種・全職員が横断的に協働していきたいと考える。

まず、入居者の世代交代が加速されることが予測されるため、退園者増加による経営的なマイナスを最小限に留めるため、全職員が募集担当としての意識を持ち、高い入居率維持のために業務を通じた募集活動への支援を継続していき、健全な園の運営を行っていききたいと考える。

次に、ここ数年重点施策としてきた認知症対応については、専門看護師・認定看護師を中心に認知症専門医・精神科医や言語聴覚士の協力を得ながら構築してきた園内での早期発見・早期診断・早期対応のシステムを向上させるとともに、医療・介護サービスが有機的に連携し、認知症の容態に応じた切れ目のない提供を定着させていく。それに連動した、介護予防活動やデイサービス機能についても提供日やメニューの拡大に取り組む。また、感染症対応についても園内での二次感染をゼロにすべく職員の意識向上と万全の対応を常に心掛ける。これらの施策が有効活用され持続可能とするためには、個々の職員の専門性に裏付けされた「感性」と「気づき」が必要であり、そうした点を磨くための職員教育にも注力していく。しっかりとした「生活支援・福祉サービス」を基本に据え、「医療・看護」・「介護・リハビリテーション」・「保健・予防」が必要に応じて提供されるといった体系こそが、松戸ニッセイエデンの園に関わるすべての人々が共有し遂行する目標として定めた「松戸ビジョン」の具現化であり、プロが支える「我が家」となる。

地域社会向けには WAC 施設という特徴を生かすとともに、松戸市指定の一次避難所として、近隣自治会及び松戸愛光園、松戸市立福祉医療センター東松戸病院と定期的防災会議を通して連携を深めていく。環境・省エネルギーへの取り組みは、入居者と職員による松戸ニッセイエデンの園エコ宣言を基本に、実践した取り組みを評価し、継続して取り組んでいく。

以上を踏まえ、以下のような 2017 年度の重点目標を掲げ、目標達成に向けて取り組みたい。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”と思っただけのような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネルギーへの取組み強化

【事業・運営計画】

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
 - (ア) 健康・快適な暮らしのための食生活支援
 - (イ) 入居から看取りまでを支えるトータルケアの実践
 - (ウ) 情報共有の推進とさらなる活用
 - (エ) 入居者参画型の企画・行事の充実
 - (オ) 孤立しがちな入居者のコミュニティづくり
2. 人材育成と連携
 - (ア) 聖隷理念の継承
 - (イ) 部門間交流を通して感性ある専門職の育成
 - (ウ) 業務整理と新たなサービスの構築
 - (エ) やりがいのある職場風土の醸成
3. 経営基盤の安定
 - (ア) 全職員が対応する入居者募集
 - (イ) 介護保険の請求率 up
 - (ウ) 一時介護室及びクリニック病床の適正利用
 - (エ) EQC の推進
4. リスク管理体制の強化
 - (ア) 感染予防対策の強化
 - (イ) 防災・防犯の充実
 - (ウ) IA 振り返りとコンプライアンスの徹底
 - (エ) メンタルヘルス予防活動の継続
5. 地域における公益的な取組
 - (ア) WAC 施設としての取り組みの充実
 - (イ) 広報活動の充実と園行事の地域への発信
 - (ウ) 職員・入居者参画の省エネルギー・環境対策の推進
 - (エ) 中期計画の策定

【数値指標】

2017 年度期末

	一 般 居 室	介 護 居 室	計
契約戸数	309 戸/315 戸	36 戸/37 戸	345 戸/352 戸
入居者数	385 名/419 名	37 名/37 名	422 名/456 名
入 居 率	98.1%	97.3%	98.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	29 名	18 名	31 名	25 名	13 名	9 名	12 名	137 名

職員数(常勤換算)	112.87 名	※有料老人ホーム部分
-----------	----------	------------

◆診療所 「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

2016年度は開園20年目を迎え、入居者の高齢化はさらに進み平均年齢は84.2歳となった。それに伴い当クリニックへの入院患者も増加し、平均入院患者数が17名を超える月もあった。これは外部医療機関に入院した入居者についても、一般居室サービス課・介護居室サービス課と連携し、医師を中心として早期の転入院の受け入れが可能な体制を整備したことも、患者増の大きな要因となっており、医療体制の充実ならびにチーム医療の実践の成果であったと捉えている。

2017年度も入居者のさらなる高齢化が予想され、様々な疾病への対応と各職種の専門性がさらに必要となることから、チーム医療の実践は当然のことながら、個人のスキルアップも急務であるとする。各職種におけるそれぞれの専門性を活かしたサービスで、入居者、利用者へ安心と信頼を提供するため、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組みたい。

1. 医療・看護サービスの充実

- (ア) 各課との連携を強化し、各職種の特性を活かしたチーム医療の実践
- (イ) 入居者の定期健康診断の受診率向上
- (ウ) 看取り看護の充実

2. 人材の確保・育成

- (ア) 専門職としてのスキルアップ
- (イ) 園内教育、研修制度の変革
- (ウ) 専門職の確保と離職防止

3. 経営基盤の安定

- (ア) ベッド稼働率(89%)の向上
- (イ) 次期診療報酬改定に向けた検討

4. リスク管理体制の強化

- (ア) I A(レポート)システムの有効活用
- (イ) 電子カルテシステムの導入

5. 環境、省エネルギーへの取り組み強化

- (ア) コスト意識を持った環境、省エネルギーへの取り組みの更なる実践

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	4,450円	244日
入院部門	17.0名	11,000円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	720名	840名
職員検診 (ドック・ケアパートナー含む)	163名	

◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

新規入居者が増加し、年齢層も幅が広がってきているため、2017年度は入居者の需要を改めて確認し、より多くの方に参加いただけるよう新たな教室起ち上げを検討する。コンサート・イベント等については、企画や開催方法の見直しを図り、入居者が余暇活動を通じて地域と交流し、交友関係を広げるためのツールとして活用できるよう支援していきたい。

1. 新規教室の開講とイベントの企画・開催方法の見直し
2. 広報活動による地域との交流
3. 入居希望者対応の支援

◆松戸ニッセイエデンヘルパーステーション

1日に複数回訪問介護を利用しながら在宅生活を継続されてきた方が施設入所となったケースや、ターミナル期を向かえてご逝去される方も相次いだことから、夏以降の訪問件数・時間ともに大幅に減少してしまう。新規契約は順調にとれているが、訪問回数の多い大型プランにはつながらないため終了ケースに追いつくまでの勢いに達しない。また、若年層のサービス利用について行政からの指導にて、介護保険から障害者総合支援法への移行を検討しなければならないケースも発生している。東部地区の社会資源の状況については施設サービスが充実してきていることから利用しやすくなっているため訪問介護サービスの利用が減少傾向にあると感じる。以上のことから今後、当事業所におけるサービス提供の在り方について早急に検討していく必要性あり。収支安定を図るべく、障害者総合支援法への参入、有償サービスの充実、人材派遣業等、新たな事業展開がキーワードになると考える。

平成 29 年度事業計画

障害者総合支援法への参入、有償サービスの充実、人材派遣業等、新たな事業展開を検討、事業拡充により収支安定を図っていきたい。

平成 29 年度 重点施策

事業所力の向上

- *事業拡充による収支の増加 安定
- *施設内人材派遣
- *障害者総合事業への参入
- *専門性を持った職員の育成・経験知におけるヘルパーの役割分担・稼働率のアップ
- *地域との連携強化・地域貢献

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2015 年の国勢調査によると 1920 年の国勢調査開始以来、初めて人口減少が報告された。いよいよ日本は超高齢化を伴う人口減少社会に入り、医療・介護・年金制度等、高齢者を取り巻く環境は更に厳しいものになっていくことが予想される。

このように社会構造が変化する中、1996 年に開設した明日見らいふ南大沢は開設 20 年経過したが、15 年以上を明日見らいふ南大沢で暮らしている入居者が 180 名近くおられる。明日見らいふ南大沢が開設時に目指した長年にわたって『入居者が安心して生活できる施設づくり』が実現できていることはとても喜ばしく、そして誇らしいことである。

一方、入居者の平均年齢も高齢化が進み 84 歳を超えた。それに伴い要介護認定を受けている入居者が約 3 割と増加し、介護棟だけでなく一般棟居住者の生活支援サービス・ケアセンター(一時介護室)の利用件数も年度を重ねる毎に増加している。

2017 年度はこの状況を改善すべく、ケアセンターの増床・夜勤体制の強化、健康増進エクササイズ“スクエアステップ”の導入など、これからの明日見らいふ南大沢に必要な各種サービスを実行できる体制を事業主体である東京都住宅供給公社とともに再構築していく。また、ケア部門だけでなく生活利便サービスや行事(催し)、接遇の向上など各種提供するサービスにおいて質の向上を目指す。これらの活動をとおして、現に生活支援・ケアサービスを利用中の入居者だけでなく、今はお元気であるにも関わらず将来に不安を感じている入居者の方たちが安心感を持てるサービス体制づくりに取り組む。

【 施設理念 】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【 経営方針 】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 明日見らいふ南大沢の方向性について東京都住宅供給公社と再構築を検討する

【 事業・運営計画 】

1. 『いきいき』『あんしん』の提供
 - (ア)「健康長寿」に繋がるプログラムの継続と開発
 - (イ) 安全で心地よいケアの提供
 - (ウ) 入居者、家族と共に実践する「看取り介護」
 - (エ) 認知症ケアの啓蒙
 - (オ) 入居者の立場に立った行事・催しの企画

2. 人材の育成

- (ア) 管理職のマネージメント能力の向上
- (イ) 自立した職員の育成
- (ウ) 専門職としての技術向上
- (エ) 働きがい、生きがいを感じる職場環境づくり

3. 新しい明日見らいふ南大沢の方向性づくり

- (ア) 各サービス・業務が現状に合っているかの再点検と見直し
- (イ) 東京都住宅供給公社への提案・協議を通しての連携強化

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 防災活動における近隣自治会・事業所等との協力関係づくり
- (ウ) 地域活動への積極参加と協力

5. 環境・エコロジー活動への取り組み

- (ア) 入居者と共同・協働による活動（ペットボトルキャップ回収等）
- (イ) 環境美化活動の継続（周辺ゴミ拾い活動）

6. 入居者募集

- (ア) セミナー他、公社募集業務への協力と連携
- (イ) 募集事務所との連携強化による新規入居者のスムーズな受入れ

【数値指標】

2017 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数/総戸数	306 戸/317 戸		48 戸/53 戸		354 戸/370 戸		
入居者数/定員	355 名/482 名		48 名/53 名		403 名/535 名		
入 居 率	96.5%		90.6%		95.7%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	19 名	25.5 名	22.1 名	25.9 名	8.8 名	7.9 名	8.4 名	117.6 名

職員数（常勤換算）	107.85 名
サービス活動収益 ※	121,000 千円

※クリニック南大沢施設診療所のみ